

# 令和7年度 第2回函館市縄文遺跡群保存活用協議会

日 時 令和8年2月25日(水)

14:30～16:00

場 所 南茅部総合センター 講堂

## 次 第

### 1 開 会

### 2 挨 拶

教育委員会生涯学習部次長

### 3 出席者紹介

### 4 議 事

#### (1) 報告事項

- ① 令和7年度 事業報告 (資料1)
- ② 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価(令和7年度下半期) (資料2)
- ③ 史跡垣ノ島遺跡の保存活用計画について (資料3)
- ④ 令和8年度 事業計画 (資料4)

#### (2) その他

### 5 閉 会

令和7年度 第2回函館市縄文遺跡群保存活用協議会  
出席者名簿

(敬称略)

●函館市縄文遺跡群保存活用協議会委員

委員	竹内 正幸	道南縄文文化推進協議会 事務局長
委員	佐藤 安浩	一般財団法人道南歴史文化振興財団 事務局長
委員	大宮 トシ子	北の縄文CLUB 会長
委員	山田 貴久	NPO 法人 Minamikayabe Revive Salon 代表理事
委員	谷口 諭	函館商工会議所 専務理事
委員	三浦 孝史	一般社団法人函館国際観光コンベンション協会 事務局長 【欠席】
委員	鈴木 健二	函館市小学校長会 南茅部小学校 校長 【欠席】
委員	菅原 学	函館市中学校長会 南茅部中学校 校長
委員	三浦 信一	北海道南茅部高等学校 校長
委員	熊谷 儀一	南茅部町内会連絡協議会 会長
委員	西田 俊一	白尻町内会 会長
委員	佐々木 孝比古	大船町内会 会長

教育委員会	宮田 至	生涯学習部次長
	木村 元子	生涯学習部文化財課長
	野村 祐一	生涯学習部文化財課 主査
	吉田 力	生涯学習部文化財課 主査
	横岡 歩	生涯学習部文化財課 主任主事
	藤田 真由	生涯学習部文化財課 主事
南茅部支所	川口 洋	南茅部支所長
	宮越 忠	南茅部支所地域振興課長
	加我 明夫	南茅部支所産業建設課長
観光部	川崎 耕太	観光部観光総務課長 【欠席】
都市建設部	種崎 俊	都市建設部景観政策担当課長 【欠席】

# 〔資料1〕 令和7年度 事業報告

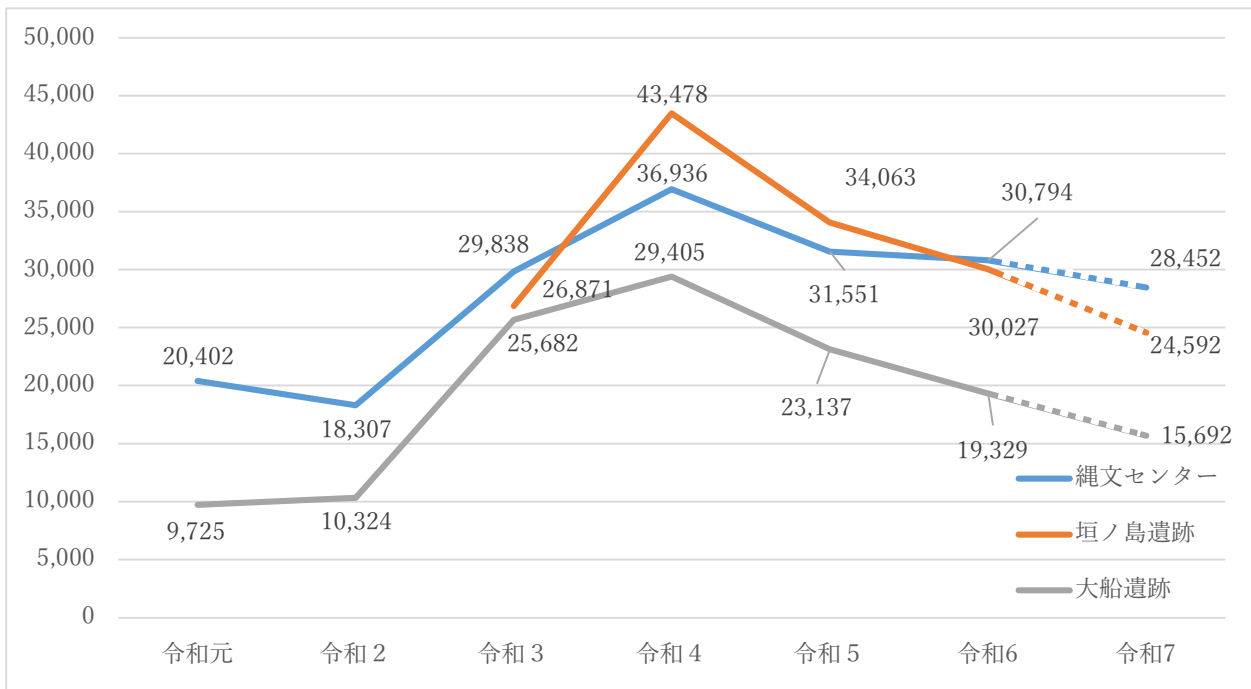
## 1 縄文遺跡群の保存活用

### ア 縄文遺跡群への来訪者推移

縄文関連施設来訪者数

(単位:人)

	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
縄文センター	20,402	18,307	29,838	36,936	31,551	30,794	26,775
垣ノ島遺跡	—	—	26,871	43,478	34,063	30,027	23,227
大船遺跡	9,725	10,324	25,682	29,405	23,137	19,329	15,074
備考			R3.7 世界遺産登録 垣ノ島遺跡公開				~R8.1月末



※ 令和7年度は、2月から3月まで前年同様の来訪とした場合の想定人数

### 〔参考〕他の構成資産への来訪者推移

資産名	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
北黄金貝塚	14,303	18,983	16,011	18,626	17,028
入江・高砂貝塚	4,547	8,383	6,475	7,381	8,593
キウス周堤墓群 ※	6,173	10,631	6,659	5,789	8,747
三内丸山遺跡	93,327	207,095	244,579	233,687	212,017

令和7年度は12月末までの人数

※ 令和7年度はガイダンスセンターの入館者数

## イ 受入体制整備

### 1) 臨時駐車場の開設 実施なし（10/5 縄文まつり会場変更のため）

第1 臨時駐車場（東海団地）

第2 臨時駐車場（南茅部スポーツセンター）

### 2) シャトルバスの運行 実施なし（10/5 縄文まつり会場変更のため）

臨時駐車場～縄文文化交流センター

### 3) 道路標識看板の整備

国道（国・開発建設部） 令和7年度 なし，令和8年度以降：4基設置予定

道道（道・函館道路事務所） 令和7年度 なし，令和8年度以降：13基設置予定

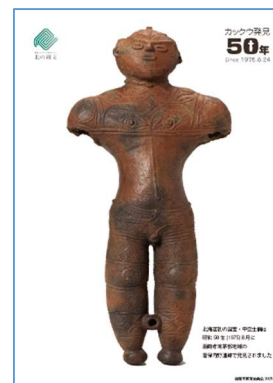
市道（市・土木部道路建設課） 令和7年度 なし，令和8年度以降：2基設置予定

## 2 縄文遺跡群の普及啓発

### ア 国宝土偶発見50年記念事業

#### 1) クリアファイルの作成 200部追加 (全700部)

2/8-9 縄文雪まつり 函館市ブース (カックウクイズ) 景品 配布



### イ 世界遺産登録4周年記念事業

#### 1) 縄文文化交流センター 無料入館

11/3 文化の日 入館者 213人 (前年 521人・59%減)

#### 2) はこだて縄文まつり 2025 10/5【共催】

来場者数 1,100人 ヒグマ目撃情報があったため会場を南茅部総合センターに変更  
関連イベントとして同日大船遺跡でクイズラリーを開催



地域おこし協力隊&縄文センターブース



北の縄文CLUBブース



縄文コンテスト

#### ○北の縄文CLUB

体験コーナーの出店

弓矢で的当て、火起こし、土器パズル

#### ○Minamikayabe Revive Salon

飲食ブースの出店

南茅部で獲れたミズタコと真昆布を使用した「焼きたこ」

#### ○中空土偶 (レプリカ) をだっこ&クイズ

体験者 152人



MRSブース



函館市ブース



## ウ 普及啓発活動

### 1) 縄文文化交流センター実施事業

- a) 縄文センター体験講座「野焼き体験」 11/8 体験者 4 人
- b) 縄文センター体験講座「土偶の凧づくり」 1/10 体験者 2 人
- c) 縄文センター体験講座「チョコレートで石器づくり」 2/7 体験者 5 人



### 2) 郷土学習推進事業「縄文に触れる学習」

市立小学校 3 年生児童 約 1,300 人  
11 月末までに全 39 校が実施済み

### 3) HOKKAIDO LOVE! 祭 出展 11/8-11/9 港湾空港部

会場：ららぽーと EXPOCITY (大阪府吹田市)



### 4) 函館駅内縄文コーナー 12/22 展示替え



5) JOMON FESTIVAL 2026 縄文雪まつり ～ 縄文 LOVE 大集合！～ 【共催】

2/8-2/9 札幌地下歩行空間 チ・カ・ホ 北3条交差点広場西

主催：北の縄文道民会議，北海道

来場者数 12,226人

○PRブース出展：中空土偶（レプリカ）展示

パンフレット配布

カックウクイズ 体験者480人

カックウつみ販売（やまつみ工房）

かぶりもの（縄文DOHNANプロジェクト）

縄文文化交流センター物品販売

○リレートーク：世界遺産のマチから 函館市，国宝対決2 中空土偶・カックウ



中空土偶（レプリカ）展示



函館市PRブース



リレートーク



縄文文化交流センターブース



○第76回さっぽろ雪まつり 2/4-2/11

大通会場4丁目 STV 広場 大雪像「祈り～縄文からのメッセージ」

9丁目市民雪像 「茅空」



大雪像



市民像

## エ 他団体事業への協力

### 1) 縄文遺跡群世界遺産本部

#### a) 世界遺産福岡フォーラム・福岡まなび体験フェア 11/15-11/16

会場：アクロス福岡（福岡市）

函館市のPRブースを出展（北海道と共用）

来場者数	まなび体験フェア	11/15-11/16	900人
	福岡フォーラム	11/16	250人



函館市PRブース



フォーラム



#### b) 世界遺産東京フォーラム 1/25

会場：有楽町朝日フォーラム

函館市のPRブースを出展 来場者数 600人



函館市PRブース



フォーラム



#### c) デジタル御朱印企画「ジョウモントラベラーズ」 7/25-R8. 3/31

遺跡・ガイダンス施設などで実施

○プレゼントキャンペーン開催 2/2-3/6



キャンペーン応募について

<https://www.jomon-travelers.jp/campaign/>



QRコード

## 2) 北海道渡島総合振興局

### a) おしまの縄文パネル展

①森町公民館 10/7-10/13

②中央図書館 12/5-12/15

12/6・13 午後はおしまの縄文クイズ実施



## オ 関係団体の活動

### 1) 道南縄文文化推進協議会

#### a) 北洋ビル 6階外窓へ縄文横断幕の再掲載 12月

「函館から縄文文化を世界へ発信！」

#### b) 縄文拠点施設道要望 12/24

函館商工会議所・函館市との3者

北洋ビル 横断幕



### 2) 北の縄文CLUB

#### a) 大船遺跡での土器野焼き 10/18



#### b) シーニック de ナイト 2025 2/1

キャンドル点灯 (南茅部総合センター駐車場)



### 3) 南茅部小学校

#### a) 大船遺跡および縄文文化交流センター見学 10/24

3年生児童 23人 引率者 2人



### 4) 南茅部中学校

#### a) 地域学習（土器洗い・拓本体験、遺跡見学） 10/17

1年生 19人 引率者 3人

場所：縄文文化交流センター



### 5) 南茅部高等学校

#### a) 探究活動報告会 11/6

各グループでテーマを決めて一年間探究学習を進めてきた成果を報告

- ・縄文の食材や意匠を生かした商品開発（クッキー）
- ・土器づくり



## 6) 南かやべ森と海の会

a) オオヤマザクラ 20 本植樹 垣ノ島遺跡 10/25



## 7) 函館ブルーデスティネーション実行委員会

a) 縄文人の精神性と自然の恵みを体感するプログラム 11/5

b) 北の縄文・1万年の定住を紡いだ豊かな森と吹上石を探訪するプログラム 11/15



## 8) 縄文DOHNANプロジェクト

a) どうなんJOMON発見! in 函館蔦屋書店2Fステージ 3/1



## 〔資料２〕 世界遺産の保全に係る遺産影響評価（令和７年度下半期）

### 1 遺産影響評価

#### 1 遺産影響評価の趣旨

構成資産内および緩衝地帯を含む周辺地域において計画されている事業等（以下「開発行為等」）が、世界遺産の価値に与える影響の可能性を事前に評価することにより、資産保全と事業実施の合意形成を目指すもの。

※世界遺産条約に基づき、ユネスコは遺産影響評価の実施を締約国に求めています。

#### 2 遺産影響評価の方法

構成資産を所管する自治体が開発行為等の事業内容を把握し、世界遺産の価値に負の影響が想定される場合には詳細分析を実施する。また必要に応じて、開発事業者と開発の中止・変更等の保全に向けた調整・要請等を行う。

#### 3 函館市縄文遺跡群保存活用協議会の役割

函館市教育委員会が把握した開発行為等について事前・事後の報告による情報共有を行い、世界遺産の価値の保全に向けての留意点を確認する。

### 2 遺産影響評価の実施状況

#### 1 令和７年度下半期

垣ノ島遺跡の資産内および緩衝地帯、大船遺跡の資産内において、計４件の開発行為等を把握し、それぞれ遺産影響評価を実施した。

（別添「遺産影響評価実施概要」のとおり）

事業名	場所	評価
① 体験ツアー実施	垣ノ島遺跡・緩衝地帯	⇒ 影響なし（レベル０）
② 支障木伐採	垣ノ島遺跡・緩衝地帯	⇒ 影響なし（レベル１）
③ 支障木伐採	大船遺跡・資産内	⇒ 影響なし（レベル１）
④ ロープ柵設置	垣ノ島遺跡・資産内	⇒ 影響なし（レベル１）

#### ※今後実施見込み

- ・ 臼尻漁港臨港道路建設工事（植栽）
- ・ 陸上風力発電事業

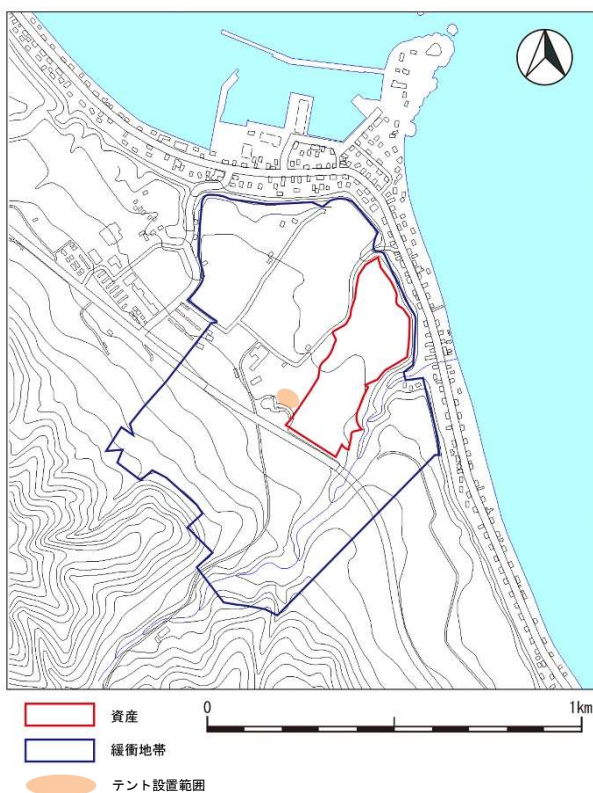
## 遺産影響評価実施概要

## 1. 事業概要

近接する構成資産	垣ノ島遺跡
事業（工事）名称	「北の縄文・1万年の定住を紡いだ実り豊かな森と海を舞台に、縄文人の精神性と自然の恵みを体験する旅」販売事業（体験ツアーの実施）
事業地	函館市臼尻町551-1, 553-1（緩衝地帯）
事業期間	着工：令和7年11月5日 完了：令和7年11月5日
事業内容	縄文文化交流センターの隣接地において、竪穴住居を想起させる大型テントを設置し、地元のレストランの協力のもと、地域の食材を活用した料理を食する縄文レストラン体験を行う。

## 2. 遺産影響評価

構成資産からの眺望	構成資産範囲内から見える
世界遺産の価値への影響	影響なし（レベル0）
詳細分析の要否	不要
評価理由	本ツアーに伴うテントは実施日に設置するものであり、眺望の変化も一時的であるため、景観への影響は軽微である。また設置区域は造成地であり、かつペグを用いるため掘削を伴う土地の改変は行わないことから、地下への影響は皆無である。
その他	テント設置の状況は函館市教育委員会文化財課職員が確認する。
評価実施日	令和7年10月28日



テント設置の様子

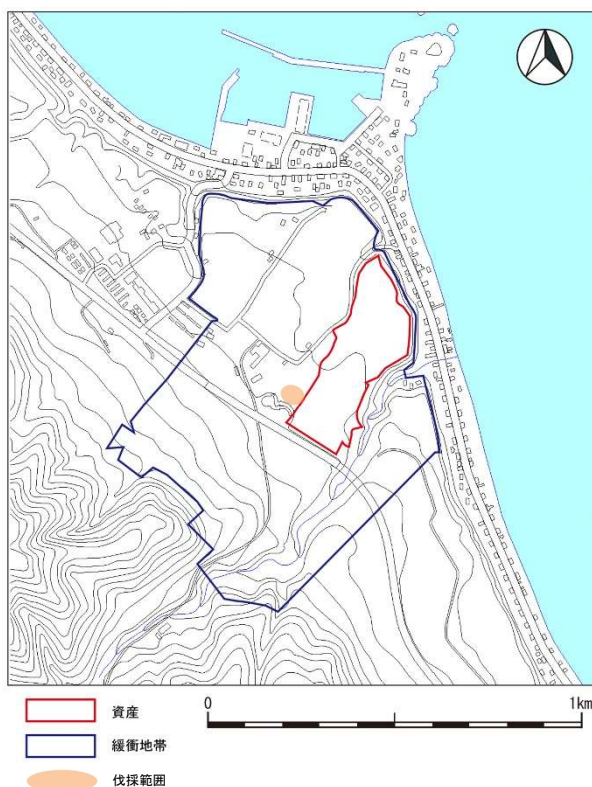
## 遺産影響評価実施概要

## 1. 事業概要

近接する構成資産	垣ノ島遺跡
事業（工事）名称	支障木伐採
事業地	函館市臼尻町551-1（緩衝地帯）
事業期間	着工：令和7年11月6日 完了：令和7年11月6日
事業内容	史跡垣ノ島遺跡と縄文文化交流センターの間の法面において，センター展望エリアからの景観向上を図るために，概ね樹高8m以下，幹周約50cm以下の樹木を20本程度伐採する。

## 2. 遺産影響評価

構成資産からの眺望	構成資産範囲内から見える
世界遺産の価値への影響	影響なし（レベル1）
詳細分析の要否	不要
評価理由	伐採区域は樹木が密集しており，互いの生長に干渉しているため，一部の樹木を間引くことによって生育環境を整備し，視点場ならびに縄文文化交流センターからの眺望を良好にするものである。実施にあたっては，地際から約10～15cmの位置で伐採し，抜根を行わないため，地下への影響はほぼ皆無である。
その他	伐採の状況は函館市教育委員会文化財課職員が都度確認する。
評価実施日	令和7年10月28日



伐採前



伐採後

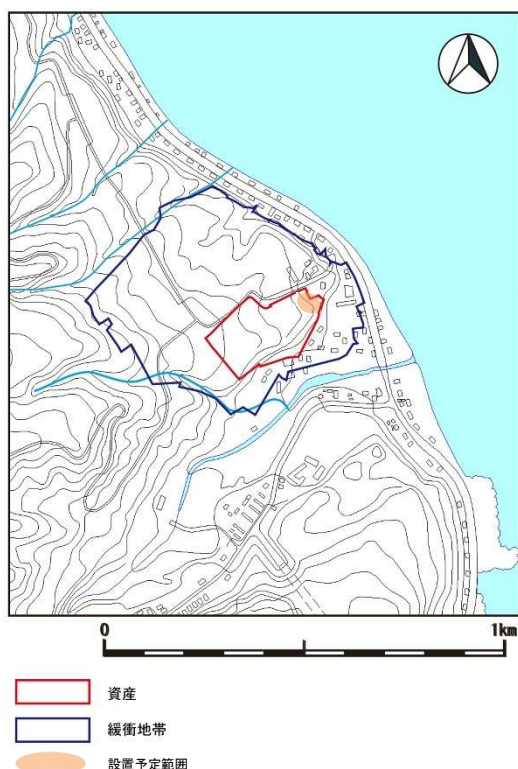
## 遺産影響評価実施概要

## 1. 事業概要

近接する構成資産	大船遺跡
事業（工事）名称	支障木伐採
事業地	函館市大船町589, 592, 601-2（資産内）
事業期間	着工：令和7年11月7日 完了：令和7年11月7日
事業内容	史跡大船遺跡の「縄文のにわ」エリアにおいて、景観の向上を図るために、北東側への海への眺望を阻害している、樹高約4～8m以下、幹周約40cm以下の樹木を、10本程度伐採する。

## 2. 遺産影響評価

構成資産からの眺望	構成資産範囲内から見える
世界遺産の価値への影響	影響なし（レベル1）
詳細分析の要否	不要
評価理由	樹木の伐採により、資産内および視点場からの眺望をより良好にするものである。実施にあたっては、地際から10～15cmの位置で伐採し、抜根は行わないため、地下遺構への影響はほぼ皆無である。
その他	伐採の状況は函館市教育委員会文化財課職員が都度確認する。
評価実施日	令和7年10月28日



伐採前



伐採後

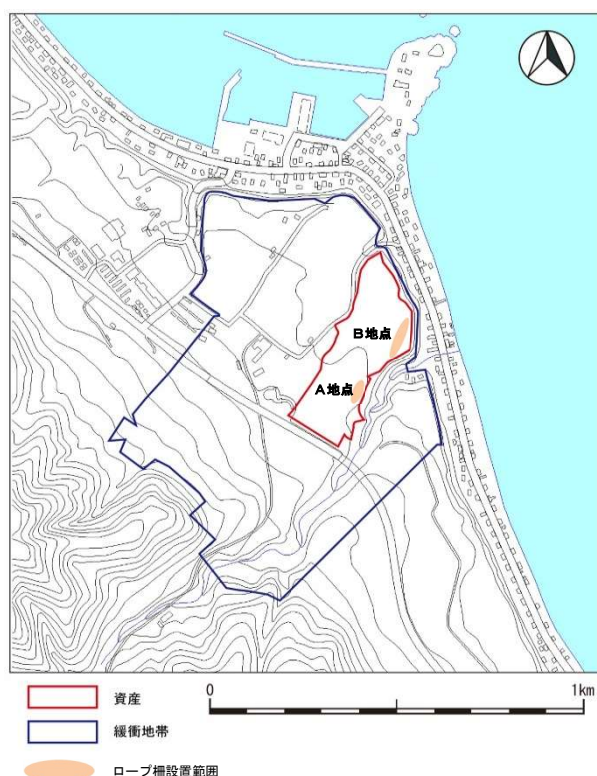
## 遺産影響評価実施概要

## 1. 事業概要

近接する構成資産	垣ノ島遺跡
事業（工事）名称	ロープ柵設置
事業地	函館市臼尻町426-2ほか（資産内）
事業期間	着工：令和7年11月17日 完了：令和7年11月27日
事業内容	史跡垣ノ島遺跡の、エントランス広場から竪穴建物群に至るまでの未整備エリア沿い（A地点）および盛り土遺構の垣ノ島川の斜面沿い（B地点）に、ロープ柵を設置する。

## 2. 遺産影響評価

構成資産からの眺望	構成資産範囲内から見える
世界遺産の価値への影響	影響なし（レベル1）
詳細分析の要否	不要
評価理由	支柱およびロープの色調は茶系とするなど、遺跡に調和する自然色を採用しているため、景観への影響は軽微である。また設置区域は十分な保護層が確保されていると確認できたため、地下への影響は極めて軽微である。
その他	ロープ柵設置の状況は函館市教育委員会文化財課職員が都度確認する。
評価実施日	令和7年10月28日

設置後  
(A地点)設置後  
(B地点)

# 〔資料3〕 史跡垣ノ島遺跡の保存活用計画について

## 1. 策定の趣旨

現行の保存管理計画（平成24年12月 策定，平成28年3月 改訂）以降に生じた様々な環境の変化に対応し，史跡垣ノ島遺跡を将来にわたり確実に保存していくため，史跡を取り巻く環境や現状を整理し，史跡の本質的価値と構成要素の明確化，史跡を適切に保存管理していくための基本方針や方法，現状変更等の取扱基準，整備および整備後の維持管理，活用等の基本的な考え方について取りまとめ，「保存活用計画」として策定するものです。

## 2. 史跡垣ノ島遺跡の概要

（史跡年代：紀元前7,000～紀元前1,000年頃）

太平洋を望む海岸段丘上に立地する集落跡。縄文早期前半から後期後半の長期にわたり集落が営まれ，また定住開始期の段階で居住域と墓域が分離したことを示しています。加えて，国内最大級の大規模な盛り土遺構をはじめ，墓に副葬された足形付土版や竪穴建物から出土した儀礼に伴う特殊な土器など，当時の高い技術や精神性を示す貴重な遺構や遺物が数多く見つかっています。

### ■これまでの経過

H12～15年度 バイパス改良工事に伴う発掘調査  
 H15～21年度 遺跡の内容確認・詳細分布調査  
 H23年2月7日 史跡指定  
 H24年度 保存管理計画の策定  
 H25～28年度 史跡の内容確認調査  
 H27年度 保存管理計画の改訂  
 H29～R2年度 整備事業の実施  
 R3年7月27日 世界文化遺産に登録

## 3. 史跡の本質的価値

北海道南部の太平洋沿岸に面した，縄文時代早期前半から後期後半にかけての長期間にわたり営まれ，居住域と墓域の分離や大規模な盛り土遺構，墓に副葬された足形付土版など，高い精神性や社会性を示す多様な遺構と遺物を有する拠点的な集落跡

■縄文時代早期前半から後期後半にかけての長期間にわたる集落変遷と定住を示す拠点集落

■墓域や盛り土遺構，特殊土器など縄文各期における精神性や社会性を示す多様な遺構と遺物

■集落を支えた豊かな自然とヒトとの関わりや周辺地域との交流を示す出土遺物と地勢

## 4. 大綱（基本方針）

■ 史跡の本質的価値の確実な保存と価値の顕在化  
 ～縄文時代の人々が残した証を保存し，その価値を正しくわかりやすく伝え，さらに高める～

■ 長期にわたる定住を支えた環境の保全と保存活用体制の充実  
 ～縄文の背景にある環境を守り，周辺景観との調和を図りながら，未来へ継承し維持し続ける～

■ 縄文文化でつながるひとづくり，まちづくり  
 拠点の形成  
 ～多様な人々の交流や学びの場となる地域の拠点づくり・空間創出をめざす～



縄文が育んだ「世界の宝」の魅力や価値を，多様な人々と交流しながら，守り，活かし，発信し，新たな価値を創造する。

## 5. 計画の対象範囲・計画期間

### (1) 対象範囲

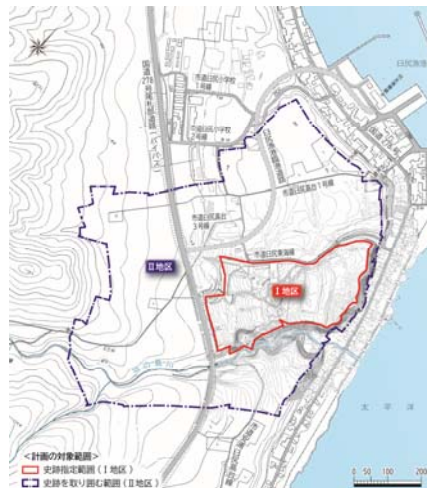
史跡指定地の地形や周辺の土地利用の状況に基づき，Ⅰ地区（史跡指定範囲）と，Ⅱ地区（史跡を取り囲む範囲）の2つに区分した。

### (2) 計画期間

令和8(2026)年4月1日から令和18(2036)年3月31日までの10か年とする。また，実施期間は，前期（令和8～12年度）と後期（令和13～17年度）に区分して，それぞれ5年の期間を設定し実施する。

区分	氏名	所属	分野
委員長	國木田 大	北海道大学大学院文学研究院 准教授	考古学 文化財科学
委員	鈴木 三男	東北大学 名誉教授	植物学 考古学
	田代 亜紀子	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授	文化遺産 地域研究
	平野 千枝	一般財団法人 道南歴史文化振興財団 函館市縄文文化交流センター 学芸主任	保存科学 普及活用
助言者	滑川 敦子	文化庁文化財第二課 史跡部門 文化財調査官	
	小野 友記子	文化庁文化資源活用課 整備部門 文化財調査官	
	鈴木 地平	文化庁文化資源活用課 文化遺産国際協力室 世界文化遺産部門 文化財調査官	
	藤原 秀樹	北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 文化財調査係 課長補佐	
	村本 周三	北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室 主査	

計画検討委員会委員および指導助言者名簿



計画の対象範囲

## 6.保存管理の基本方針

- 史跡の管理にあたっては、史跡の本質的価値を踏まえ、構成する諸要素を明確化したうえで、関係法令に基づき、各要素の適切な保存管理を図る。
- 地下に埋蔵されている遺構・遺物の確実な保存を図り、調査研究、保存、整備に資するための発掘調査は必要最小限にとどめるなど配慮する。

等

## 7.活用の基本方針

- 史跡の本質的価値の理解に資することを前提に、そのうえで活用と保存の両立が図られた内容であるか、適切に判断したうえで活用を推進する。
- 史跡来訪者や管理運営者のみならず、地域住民、学校・商工関係者や行政など、史跡に関わるあらゆる人を含めて多角的な視点で史跡を位置付け、一年を通じて活用を図る。

等

## 8.調査・研究の基本方針

- 史跡の価値や魅力の向上・深化のため、調査・研究を継続的に実施する。
- 調査・研究体制として、本市が直接実施することに加え、大学や研究機関等の外部団体との連携や市民との協働を図る。

等

## 9.整備の基本方針

- 来訪者の属性や傾向といった来訪実績を分析し現状を踏まえ、受入体制の充実および史跡の価値や魅力を伝えるための良好な見学環境を整備する。
- インバウンドを含む見学者の多様なニーズに対応することで、来訪者の満足度向上を図る。
- 新規の来訪者を呼び込み、リピーターを増やしていくため、現状の整備との融合を考慮しつつ、新たな見所を創出する。
- “縄文時代と同じ景色を見ることができる”という魅力ある景観を維持するとともに、縄文から続く豊かな自然環境を活かした縄文体験・環境学習の場を創出するなど、景観の保全や向上、改善に取り組む。

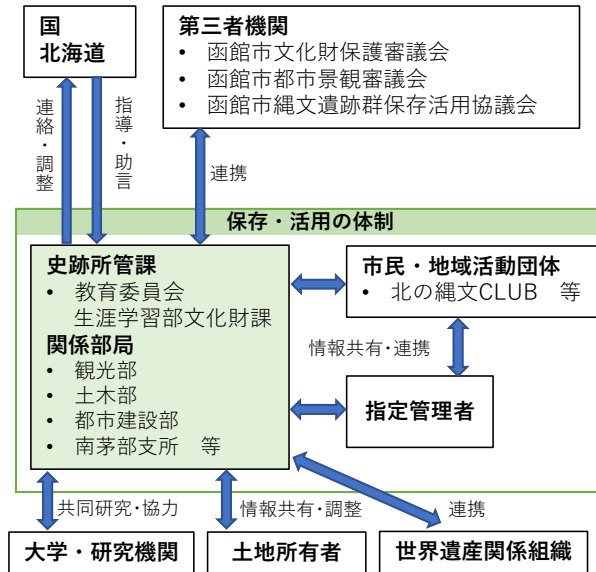
等

## 10.運営・体制の基本方針

- 史跡指定範囲の保存管理は、所有者・管理者である市教委が実施する。
- 通常の維持管理や案内・解説等の来訪者対応を含む管理運営業務全般は、市教委の指導・監督のもとに、指定管理者が実施する。

等

### ■運営・体制図



### ■目次

- 第1章 保存活用計画策定の沿革・目的
- 第2章 史跡を取り巻く状況
- 第3章 史跡垣ノ島遺跡の概要
- 第4章 史跡垣ノ島遺跡の本質的価値
- 第5章 大綱（基本方針）
- 第6章 保存管理
- 第7章 活用
- 第8章 調査・研究
- 第9章 整備
- 第10章 運営・体制
- 第11章 実施計画
- 第12章 経過観察
- 附 章 世界文化遺産に係る取扱い

## 11.実施計画

区分・施策		今年度	前期 2026- 2030	後期 2031- 2035
計画	保存活用計画	■		■
	整備基本計画			■ 整備事業の検討
保存管理	巡回による現状確認	■	■	■
	日常的な維持管理	■	■	■
	修繕等の適切な維持補修	■	■	■
	現状変更案件の確実な執行	■	■	■
活用	縄文文化学習の推進	■	■	■
	地域における防災施設としての活用	■	■	■
	デジタルコンテンツの活用促進・環境整備	■	■	■
	誘客の促進、インバウンド対応の強化	■	■	■
	周遊・観光ルートの創出	■	■	■
	体験型プログラムの創出	■	■	■
	交流事業の推進、交流人口の増大	■	■	■
	他業種および市民等との連携	■	■	■
調査・研究	紙媒体やSNSによる情報発信の強化	■	■	■
	発掘調査の計画立案、実施の検討			■
	大学や研究機関等との連携	■	■	■
	過去の出土資料の再整理や分析	■	■	■
整備	調査・研究成果の公開	■	■	■
	受入環境・体制の拡充			■ 検討
	遺構検出エリアの新規整備			■ 検討
	既存施設の更新		■ モックアップ	■ 検討
	デジタルコンテンツの拡充			■ 検討
運営・体制	自然環境の維持および改善	■	■	■
	管理運営体制の充実	■	■	■
	庁内関係部局との連携体制の強化	■	■	■
	地域住民と連携、保護意識の醸成	■	■	■
	市民や活動団体との協働、体制の継続	■	■	■

■ 重点的に実施  
 ■■■■■ 継続して実施



史跡垣ノ島遺跡 全景

## 〔資料4〕 令和8年度 事業計画

1 縄文遺跡群世界遺産関係経費 99,949千円

1 縄文文化交流センター等管理委託料 97,356千円

縄文文化交流センター・大船遺跡・垣ノ島遺跡の管理運営業務

〔指定管理者〕 一般財団法人道南歴史文化振興財団  
〔指定管理期間〕 令和7年4月1日から令和10年3月31日まで（3年間）  
〔債務負担行為限度額〕 令和7年度 94,682,000円  
令和8年度 97,356,000円  
令和9年度 97,374,000円 3か年合計 289,412千円

2 縄文世界遺産登録5周年記念事業費 1,000千円

JOMON WEEK 2026 9/26～10/4

9/26～10/4 おしまの縄文パネル展 10/3 登録5周年記念講演会  
9/27 講演会&ワークショップ (10/4 縄文まつり2026)

3 保存活用・普及啓発費 1,593千円

### ア 保存・維持管理

- 1) 函館市縄文遺跡群保存活用協議会の開催 2回
- 2) 縄文遺跡群世界遺産本部関係会議への出席  
本部会議（青森市），専門家委員会（盛岡市，青森市），世界遺産協議会（札幌市）等

### イ 受入体制整備

- 1) 臨時駐車場の確保  
第1臨時駐車場（東海団地用地），第2臨時駐車場（スポーツセンター駐車場）
- 2) 臨時駐車場シャトルバス運行  
4月～11月のうち混雑日6日間 臨時駐車場 ⇄ 縄文文化交流センター

### ウ 普及啓発事業

- 1) はこだて縄文まつり2026  
〔主催〕南かやべ縄文まつり実行委員会  
〔共催〕函館市教育委員会  
〔会場〕垣ノ島遺跡  
〔実施時期〕10/4（日）開催予定
- 2) その他縄文関連イベントへの協力  
資料展示・PRブースの出展  
グッズの配布

## エ 縄文遺跡群誘導案内の整備

### 1) 電柱掲示案内版

函館駅・函館空港 ～ 大船遺跡・垣ノ島遺跡における電柱掲示案内板設置

### 2) 道路標識

函館開発建設部，北海道函館建設管理部で設置予定

## オ 縄文世界遺産拠点施設の誘致

### 1) 縄文世界遺産拠点施設の函館誘致

道南エリアにおける拠点施設開設に係る北海道との協議

## 2 縄文遺跡群世界遺産本部負担金

899千円

## ア 保存・活用推進事業

### 縄文遺跡群世界遺産本部の運営

〔構成団体〕4道県および14市町 計18自治体

〔主な事業〕・会議の開催 本部会議1回，協議会2回，専門家委員会2回

・包括的保存管理計画の運用 ・デジタルアーカイブの運営

## イ 来訪・周遊促進事業

来訪者動向調査，来訪・周遊促進企画，世界遺産登録5周年記念企画

## ウ 総合情報発信事業

国内フォーラムの開催（東京・大阪），ホームページによる情報発信，広報物制作

## エ その他 世界遺産の連携・協力

## 3 郷土学習推進事業「縄文に触れる学習」

3,343千円

市立小学校の児童が，大船遺跡や垣ノ島遺跡，縄文文化交流センターを見学し，身近にある世界遺産や国宝「中空土偶」について学ぶ「縄文文化に触れる学習」を実施

〔対象〕市立小学校第3学年の児童および引率教員 約1,400人

〔事業費〕バス借上料3,343千円

## 4 南茅部地域世界遺産活用支援事業費

6,057千円

### 南茅部支所

地域おこし協力隊制度を活用した南茅部地域活性化に向けた支援事業

地域おこし協力隊 2名